

キャリア教育の視点から考える 不登校生徒への学習支援の在り方

学籍番号 229320
氏名 中村勇貴
主指導教員 鈴木真由子
副指導教員 手取義宏

緒言

1 研究の背景

筆者が学校実習を行うA中学校では、「キャリア教育を軸としたカリキュラム」を実施しており、特徴として、キャリア教育に力を注いでいる。また、筆者はA中学校にて、「ワンステップ」というA中学校における校内適応指導教室で、学習支援サポーターとして不登校からの教室復帰を目指す生徒と関わっている。キャリア教育は、働き方改革やAIの導入などで職業、生き方が多様化していることなどを踏まえ、現代社会において需要が高まっている。また、文部科学省は不登校問題の深刻化を受けて、「誰ひとり取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」として「COCOLOプラン」という対策案を提示し、不登校対策としてこれまでになかった大々的な取り組みになると予想され、今後の動向が注目されている。

本研究は、自身の実習校の特徴及び自身の活動から、現在の教育課題と結びつく部分をテーマとし、実習校における教育実践の一助となるために進めていく。

2 研究の目的

自身の活動、現在の教育課題と結びつく部分をテーマとし、A中学校で行われている「ワンステップ」という不登校支援の取り組みの機能を向上していくにあたり、A中学校が重視しているキャリア教育の視点も踏まえ、ワンステップの現状の課題を把握し、どのような支援ができるかを検討し提案することが研究の目的である。

3 研究の方法

まずA中学校におけるキャリア教育の実態を把握するために、キャリア教育がどのようなものかを先行研究等をもとに整理したのち、A中学校におけるキャリア・パスポートのアンケートを活用し、中学卒業時の到達点としてキャリア教育における基礎的・汎用的能力がどのように見つけたのかを明らかにする。その後、不登校生徒のための支援の実態を、先行研究等を参考に、現在行われているワンステップの取り組みの現状を観察やこれまでの記録をもとに整理する。その後、A中学校のキャリア教育の実態とワンステップの現状から課題を考察し、その課題を念頭に置き、不登校生徒に対してどのような支援ができるのかを検討する。

第1章 キャリア教育の先行研究をもとにした

A 中学校の実態把握

キャリア教育の先行研究をもとに、A中学校で使用されているキャリア・パスポートの4件法調査の結果から、実習校におけるキャリア教育の実態把握を行った。4件法調査の結果を「A 質問項目ごとの回答の内訳」、「B 質問項目及び、基礎的・汎用的能力ごとの平均値と標準偏差」、「C 質問項目及び、基礎的汎用的能力ごとの相関係数」の3つの視点から考察を行った。考察の結果、全体的に高い水準でキャリア教育が実践されている可能性が見られ、日々の実践の中で未来、もしくは先のことを意識させ、見通しを持たせるような指導ができればより実践の効果が高まる可能性があることが分かった。

第2章 不登校支援の実態と参与観察による

ワンステップの課題

不登校の実態、文部科学省の提示している COCOLO プランの取り組み、不登校支援に関する先行研究についてまとめ、第1章で述べた実習校でのキャリア教育の視点をとワンステップでの生徒の観察の結果をもとに、ワンステップにおける課題を考察した。課題として、より個に応じたサポートの必要性、生徒が行事に参加しづらいこと、体験活動の機会が少ないことの3点を課題として挙げた。2点目、3点目の課題から、集団活動の機会が少ないことで、第1章で述べたようにキャリア教育における基礎的・汎用的能力の獲得が難しくなる可能性についても示唆した。

第3章 キャリア教育の視点を踏まえた不登校支援の方法

第2章で挙げた課題の改善に向けて、先行研究に基づき①個に応じたサポートの必要性から、「アセスメントシート」と「個別の指導計画の導入」、②ワンステップ内での集団活動の時間の確保のために、遊びを通して学級復帰を目指すスキルを身につけることの2点を提案の内容としてまとめた。2つの提案は、生徒に関する情報共有の仕方を強化する点や、教室適応のためのトレーニングとしての時間を確保するという点から、ワンステップ運営の計画性を高めることができるような提案になることを示唆した。

結語

本研究の成果は、提案内容を考えるにあたりワンステップにおける課題を発見したこと、A中学校の教育活動の土台となっているキャリア教育の視点も踏まえたことで、課題をワンステップからの視点だけではなく多角的な視点から課題を考えることができたことの2点である。

データを再収集し本研究のデータと比較することで新たな発見を得ること、提案内容を実践し改良を加えていくことの2点を今後の展望としたい。